

都市再生整備計画 事後評価シート(案)
鶴崎地区

令和7年1月
大分県大分市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県		市町村名		大分市		地区名		鶴崎地区			面積		84ha					
交付期間	令和3年度～令和6年度		事後評価実施時期		令和6年度		交付対象事業費		878.9百万円		国費率		0.50						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名																
			基幹事業		公園(鶴崎公園再整備、鶴崎公園駐車場整備)、高質空間形成施設(毛利空桑記念館トイレ整備事業)、高次都市施設(鶴崎地域交流センター整備事業)、既存建造物活用事業(鶴崎地域交流センター整備事業)														
			提案事業		地域創造支援事業(つるさき歴史・文化展示スペース整備)、事業活動調査(事業効果分析調査)														
	当初計画から削除した事業		事業名					削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
			基幹事業		公園：鶴崎公園駐車場整備事業					鶴崎公園再整備事業と合わせて整備を行うため				影響なし					
			提案事業		なし					－				－					
			方策1：防災機能の維持強化 既存の防		基幹事業		なし					－				－			
			提案事業		地域創造支援事業：鶴崎公民館周辺歩行者等利便性向上事業					周辺で実施している基幹事業と合わせて、施設の更なる機能強化を図り利便性を向上させるため				影響なし					
	交付期間の変更		当 初		令和3年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし										
			変 更		なし														
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ					
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)		予定時期						
	指標1	想定最大浸水時避難可能性人数割合	%	39.8%	R1	50.0%	R6		50.2%(R5)	○	あり なし	交付期間中に実施された鶴崎地域交流センターの整備や鶴崎公民館の改築をしたことが効果発現要因と考える。		令和7年1月					
	指標2	教育・文化・交流施設利用者数	人/年	68,089人	R1	82,000人	R6		58,719人/年(R5)	△	あり なし	● コロナ禍の影響で利用者が大幅に減少していたが、近年では徐々に利用者が増加している。目標達成には至っていないが、事業効果の発現は確認できる。		令和7年5月					
	指標3	-	-	-	-	-	-	-	-			-		-					
	指標4	-	-	-	-	-	-	-	-			-		-					
	指標5	-	-	-	-	-	-	-	-			-		-					
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因		フォローアップ					
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)		予定時期						
	その他の数値指標1	-	-	-				-			-		-						
	その他の数値指標2	-	-	-				-			-		-						
その他の数値指標3	-	-	-				-				-		-						
4)定性的な効果発現状況	・鶴崎公民館では「エレベーターや多機能トイレが設置され施設が利用しやすくなった」や「集会室の駐車場が屋内になるため利用しやすい」等の意見が来館者から多く上がっている。																		
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等								
	モニタリング		-			都市再生整備計画に記載し、実施できた													
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した													
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった													
	官民連携による取組		・鶴崎公民館、鶴崎公園の整備に関する地元説明会の開催 ・鶴崎市民行政センター周辺施設利用者へのアンケートの実施			都市再生整備計画に記載し、実施できた													
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						●													
持続的なまちづくり体制の構築		-			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった														
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した														
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった														

様式2-2 地区の概要

鶴崎地区（大分県大分市）都市再生整備計画事業の成果概要																										
令和7年1月		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値																		
大目標：鶴崎地区における地区拠点の形成 目標1：災害に強いまちづくり 目標2：教育・文化機能、交流機能強化		想定最大浸水時避難可能人数割合	単位：％	39.8%	R1	50.0%	R6	50.2%	R5																	
		教育・文化・交流施設利用者数	単位：人／年	68,089人／年	R1	82,000人／年	R6	58,719人／年	R5																	
■関連事業 地域総合防災訓練 ■関連事業 防災教育 ■関連事業 多世代交流講座 ■提案事業 事業活用調査 【事業効果分析調査】 凡例 ■基幹事業 ■提案事業 ---関連事業 —事業範囲 ---都市機能誘導エリア ---居住誘導エリア <tr><td>まちの課題の変化</td><td colspan="8"> 1.強化された防災・避難所の維持管理 鶴崎地域交流センターや鶴崎公園の整備により、鶴崎地区の防災・避難所の機能が強化され浸水時に避難可能人数が大幅に増加した。これらの整備を踏まえて防災・避難所としての機能の維持管理に努める必要がある。 2.教育・文化・交流施設の周知や回遊性向上による地域コミュニティの強化 鶴崎地域交流センター整備、鶴崎公園整備、及び毛利空桑記念館整備により、誰もが利用しやすい教育・文化・交流施設が整備された。今後は、関係人口や交流人口を増加するために施設情報の周知を図るとともに、地区の回遊性や利便性を向上させて利用者の拡大を図る必要がある。 </td></tr> <tr><td>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</td><td colspan="8"> 方策1：防災機能の維持強化 既存の防災・避難所の機能を維持増進するとともに、事業により整備された鶴崎交流センターや鶴崎公園を活かした新たな防災訓練等のソフト施策を実施し、地区の防災機能の更なる強化を図る。 方策2：地域コミュニティの更なる強化による、地区の歴史文化の継承 バリアフリー整備により誰もが利用しやすくなった文化交流施設の周知を進め、利用者の増加を図る。また、教育交流施設を新たな教育の場として大分市全域で活用し、更なる利用促進を図る。さらに、鶴崎地区で実施されている国道197号の拡幅事業などのまちづくりに合わせ、地区の回遊性や利便性の向上を図る。これにより、地区の関係人口や交流人口が増加し、多世代の交流が促進され、鶴崎地域の歴史や文化を継承していくことを目指す。 </td></tr>									まちの課題の変化	1.強化された防災・避難所の維持管理 鶴崎地域交流センターや鶴崎公園の整備により、鶴崎地区の防災・避難所の機能が強化され浸水時に避難可能人数が大幅に増加した。これらの整備を踏まえて防災・避難所としての機能の維持管理に努める必要がある。 2.教育・文化・交流施設の周知や回遊性向上による地域コミュニティの強化 鶴崎地域交流センター整備、鶴崎公園整備、及び毛利空桑記念館整備により、誰もが利用しやすい教育・文化・交流施設が整備された。今後は、関係人口や交流人口を増加するために施設情報の周知を図るとともに、地区の回遊性や利便性を向上させて利用者の拡大を図る必要がある。								今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	方策1：防災機能の維持強化 既存の防災・避難所の機能を維持増進するとともに、事業により整備された鶴崎交流センターや鶴崎公園を活かした新たな防災訓練等のソフト施策を実施し、地区の防災機能の更なる強化を図る。 方策2：地域コミュニティの更なる強化による、地区の歴史文化の継承 バリアフリー整備により誰もが利用しやすくなった文化交流施設の周知を進め、利用者の増加を図る。また、教育交流施設を新たな教育の場として大分市全域で活用し、更なる利用促進を図る。さらに、鶴崎地区で実施されている国道197号の拡幅事業などのまちづくりに合わせ、地区の回遊性や利便性の向上を図る。これにより、地区の関係人口や交流人口が増加し、多世代の交流が促進され、鶴崎地域の歴史や文化を継承していくことを目指す。							
まちの課題の変化	1.強化された防災・避難所の維持管理 鶴崎地域交流センターや鶴崎公園の整備により、鶴崎地区の防災・避難所の機能が強化され浸水時に避難可能人数が大幅に増加した。これらの整備を踏まえて防災・避難所としての機能の維持管理に努める必要がある。 2.教育・文化・交流施設の周知や回遊性向上による地域コミュニティの強化 鶴崎地域交流センター整備、鶴崎公園整備、及び毛利空桑記念館整備により、誰もが利用しやすい教育・文化・交流施設が整備された。今後は、関係人口や交流人口を増加するために施設情報の周知を図るとともに、地区の回遊性や利便性を向上させて利用者の拡大を図る必要がある。																									
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	方策1：防災機能の維持強化 既存の防災・避難所の機能を維持増進するとともに、事業により整備された鶴崎交流センターや鶴崎公園を活かした新たな防災訓練等のソフト施策を実施し、地区の防災機能の更なる強化を図る。 方策2：地域コミュニティの更なる強化による、地区の歴史文化の継承 バリアフリー整備により誰もが利用しやすくなった文化交流施設の周知を進め、利用者の増加を図る。また、教育交流施設を新たな教育の場として大分市全域で活用し、更なる利用促進を図る。さらに、鶴崎地区で実施されている国道197号の拡幅事業などのまちづくりに合わせ、地区の回遊性や利便性の向上を図る。これにより、地区の関係人口や交流人口が増加し、多世代の交流が促進され、鶴崎地域の歴史や文化を継承していくことを目指す。																									